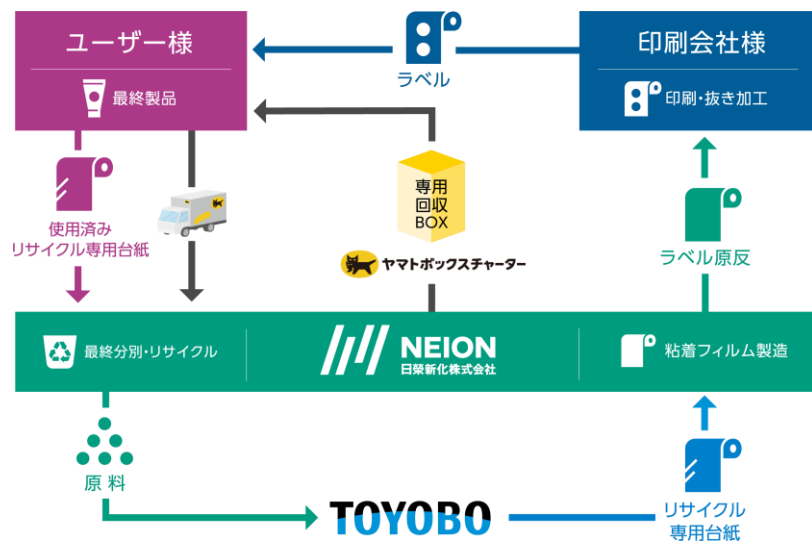


ラベル台紙の水平リサイクル「資源循環プロジェクト」



Features : ラベル台紙の循環型リサイクルスキームの確立

ラベルが様々な製品に貼られる直前まで使用されている「ラベル台紙」。ラベル台紙は、紙の表面にシリコンやポリエチレン等の樹脂がコーティングされているため、紙と樹脂が分離できずリサイクルが難しい状況であった。

そうした中、本プロジェクトでは、マテリアルリサイクル可能な素材で設計された「リサイクル専用台紙」にラベル台紙を置き換え、資源循環に取り組む。業界を超えた企業が協力して、使用済みの「リサイクル専用台紙」をユーザーから回収し、再び、「リサイクル専用台紙」の原料に戻す「循環型リサイクルスキーム」が確立した。「リサイクル専用台紙」で設計したラベルは、従来のラベルと同コスト帯での販売も可能となっている。

Innovation : 取組内容に共感する参加企業・活動地域の広がり

資源循環プロジェクトへの参加により、①産業廃棄物の削減、②CO2の排出量削減、③マテリアルリサイクル率の向上、④品質向上の4つのメリットがある。

周知活動や参加企業のメディア露出により、取組内容に共感する企業も増え始めている。現在のところおよそ22社（2024年2月末時点）で参加。埼玉県や広島県などの自治体と連携がスタートするなど、活動地域は広がりを見せている。

Future : 2025年、リサイクル可能なラベル台紙の量を月間32万㎡に。

2025年には、リサイクル可能なラベル台紙の量を月間32万㎡とすることを目標にしている。国内の製造業全体では月間1.16億㎡ものラベル台紙が燃焼・廃棄されているところ、少しずつ前進していきたい。

品質、コスト、環境価値提供を達成する資源循環プロジェクト

Find VALUE ~みつける~

資源循環に取り組む上で、苦労したポイントの1つに回収のプロセスがあった。回収コストも極力抑えたいという意向もあった。そうした中、ヤマト運輸グループが取り組む「JITBOX」に着目。JITBOXは全国各所に行き届いたサービスであり、本サービスを活用することで、円滑且つコスト面もクリアできる形で、回収できるスキームを構築できた。

Create VALUE ~つくる~

ものづくりの観点から、品質とコストについては、徹底的に議論した。アイデアが進んでいくと、後から修正することは非常に難しい。その点を意識・苦労しながら、プロジェクトを進めていった。品質とコストをクリアした上で、導入してもらえるよう「環境価値」の定量化にも取り組んだ。

Share VALUE ~つたえる~

「資源循環プロジェクト」は、アライアンスを締結する6社（日榮新化、東洋紡、シオノギファーマ、トッパンインフォメディア、三井物産ケミカル、ヤマトボックスチャーター）が共同運営している。定期的にミーティングを行いながら、世の中に広める仕組み・活動も続けている。



(回収したリサイクル専用台紙)



(回収で使用するJITBOX)

Player

日榮新化 (株)	粘着フィルム製造、マテリアルリサイクル
東洋紡 (株)	リサイクル専用台紙の設計・製造
シオノギファーマ (株)	リサイクル専用台紙の活用
(株) トッパンインフォメディア	ラベル製造・印刷
三井物産ケミカル (株)	CO2排出削減量の算出
ヤマトボックスチャーター (株)	リサイクル専用台紙の回収